

5年組 道徳学習指導案

場所 5年組教室

授業者 松村 薫

1. 主題構成表

主題名 仲良く助け合う

資料名 「長なわ大会」

出典「あすをみつめて」日本文教出版

<p>内容項目 2 - (3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。</p>	<p>価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none">・ 児童は、休み時間や行事などの時によく本音を語り、本当の自分の姿をあらわす。はじめは単なる仲良しの間柄であっても、そんな活動で様々なことを経験し、互いの人格を出し合い、認め合い、深めていく中で、真の友情が育つものである。・ 真の友情を育てるには、自分の思いを語り、また相手を思いやる心を持つとともに、互いの信頼に応える努力をすることが大切である。・ 人の痛みや願いに共感し、自分にできることは何かを考え、互いに歩み寄り、真の仲間になろうとする思いが持てるようにしたい。	<p>資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none">・ 主人公ぼくの学級では、長なわ大会のチームをくじ引きで決めた。自分のチームには、運動の苦手な子K君や長なわが苦手な子が入ることになった。練習していくうちに大会へのやる気を出していくが、反対にやる気を見せないK君にいらだちを感じ、責める。これらの姿から、自己中心的な人間の弱さを感じ取らせることができる。・ K君の本音を聞き、考え込んでしまうぼくの気持ちを考えることによって、友情とは何かという児童への問題提起ができる。・ 終わりの会でVサインを送るぼくの姿から、真の友情でつながる仲間のすばらしさに共感させることができる。
<p>ねらい</p> <p>一緒に長なわの練習をやらうとしないK君の本音を聞き、考え込んでしまう主人公の気持ちを考えることを通して、相手の気持ちや立場を考えたり、相手のことを思って行動したりすること、また、その友達の気持ちに誠実に応えることができる仲間になろうとする心情を深めることができる。</p>		

<p>展開の構想</p> <ul style="list-style-type: none">・ いつまでたっても練習をやらうとしないK君を見ているぼくの気持ちは、自分の損得しか考えていない自己中心的な弱い心が占めていることを押さえ、共感できるようにする。・ K君の本音を聞き、自分のことを見つめ直し始めるぼくの姿から、友情とは何かということをもとに考えさせ、ねらいとする価値に迫る。・ Vサインと笑顔で通じ合うぼくとK君の姿から、真の友情の意味や良さを把握させる。・ 自分たちにも真の友情を育もうとしている姿があることが自覚できるようにしていく。
--

<p>基本発問 (中心発問)</p> <p>本当の友達とは、どういう友達だろう。</p> <p>いつまでたっても長なわの練習をやらうとしないK君について、ぼくは、どんなことを思っていたらうか。</p> <p>K君が「頭では、わかっているんだけど・・・。」と言った時、ぼくが考えたことって何だろう。</p> <p>ぼくは、どんな気持ちでVサインをしたのだろうか。</p> <p>二人のように友達とこんなことはありましたか。本当の友達とはどういう友達なのだろう。</p>
--

2. 授業の展開

段階	学習活動（基本発問と予想される児童の反応）	支 援 ・ 留 意 点
つ か む	<p>(1) 本時の価値の方向付けをする。 本当の友達とは、どういう友達だと思うか話し合う。 大事な子 頼れる やさしい 親切 みんなの気持ちを考える 困っている時に助けてくれる</p>	<p>(補助発問) ・ どういう時にどんなことをするのが友達か。</p>
深 め る	<p>(2) 主人公の気持ちを読み取る * 資料を読む。 ・ あらすじを把握しながら、自分の損得しか考えていない自己中心的な「ぼく」を押さえる。 いつまでたっても長なわの練習をやりやうとしないK君について、「ぼく」は、どんなことを思っていたらうか。 ・ ちゃんと練習しろよ。 ・ やる気だせよ。 ・ どうして練習しないんだ。 ・ こんなことじゃ、また優勝できない。</p> <p>K君が「頭では、わかっているんだけど・・・。」と言った時、「ぼく」が考えたことって何だろう。 ・ 悪かったな。傷つけてしまった。 ・ ぼくの言ったことは、正しかったのだろうか。 ・ K君は、やる気があったんだ。 ・ K君の気持ちも考えずに・・・ ・ どうしたらいいのかな。いい方法はないだろうか。</p> <p>「ぼく」は、どんな気持ちでVサインをしたのだろう。 ・ K君と協力できてよかった。・ やったね! ・ K君と分かり合えてよかったな。 ・ 優勝はできなかったけれど、いつもの明るいK君の笑顔を見ることができてよかった。 ・ 12回しか跳べなかったけど、みんなで跳んだ価値ある12回だからそれでいいな。。</p>	<p>・ 場面絵を提示しながら、自分の損得しか考えていない自己中心的な「ぼく」を押さえ、自己と重ね合わせて弱い心に共感できるようにする。(今年こそはよいチームに入って優勝・好きな人どうしチームを提案)</p> <p>・ 「ぼく」の言った言葉に立ち止まらせる。</p> <p>・ 自分のことしか考えていなかった「ぼく」が、K君の本音を聞いたことで自分を見つめ直し、さらに歩み寄ろうとするところをたくさん引き出したい。 ・ 道徳ノートにじっくり考えさせ、思いを書かせたい。</p> <p>・ 12回しか跳べず、優勝もできなかったが、くやしさが残っていない「ぼく」の思いを考えさせることで、真の友情の意味や良さに気づかせたい。 ・ 最初の頃の「ぼく」の思いと比較する。</p>
見 つ め る	<p>(3) 自分の生活で考える みんなも友達とこんなことあったかな。本当の友達ってどういう友達のことをいうのだろう。 ・ 自分が勝ちたいという気持ちばかりで、弱い子の気持ちに気づいてあげられないことがあった。 ・ やってあげたり、声をかけたりすることはできていたけど、それでは、本当の友達とはいえないんだな。</p> <p>(4) 教師の説話</p>	<p>・ 感想の中にも、自己を振り返る言葉が少しでも入るよう、机間指導をしたい。 ・ 道徳ノートでじっくり振り返りを書かせたい。</p> <p>・ 互いに歩み寄ることができた時の喜びへの憧れを持たせたい。</p>